

日本国内におけるマラソンイベントの現状

上代圭子¹⁾、野川春夫²⁾、宮崎朋子²⁾

1) 東京国際大学 2) 順天堂大学

1. 背景と動機

2007 年より始まった東京マラソンを中心として全国的にマラソン・ランニングブームが広がっている。

レジャー白書（2009）によると、2008 年のジョギング・マラソンの参加人口は 2,550 万人となっており、2005 年から約 430 万人も増加している。一般的には、マラソンが注目される理由として、①健康志向が高まっている、②手軽にスポーツが楽しめる、③年齢や性別を問わない、④用具にかかる費用が少ないなどが挙げられており、このような理由から、ジョギング・マラソンの参加人口が増加していると推測される。

一方で、近年、地域活性化の手段として生涯スポーツの一つである「市民マラソン」に注目が集まっており、町おこしの一貫として各地でマラソン大会を開催されている。しかしながら、開催状況については、きちんと把握されていない状況である。

そこで、順天堂大学スポーツ健康科学部生涯スポーツ国際比較研究室と財団法人日本陸上競技連盟との協働により、現在すでに歴史を重ねているマラソンイベントのさらなる活性化、もしくは今後全国各地で企画・開催されるマラソンイベントの円滑な企画・運営に寄与するための情報を収集・分析すべく、全国のマラソン大会に関する調査を行った。

本調査では、①日本全国で開催されているマラソンイベントの情報収集と分析、②一般市民ランナーのマラソンイベントに対する意識調査と分析という 2 つの目的を中心に、これらの目的を達成するために、①マラソン・ランニング専門誌を用いた情報収集、②イベント主催者の方々に対する質問紙調査ならびに③面接調査、④ランナーの方々を対象としたインターネット調査ならびに⑤マラソンイベント現地での質問紙調査といった全 5 種類の調査手法を用い、マラソンイベントに関わる方々の視点を多角的に捉えた。

そこで本学会では、上記のような調査結果から、今後ジョギング・マラソンブームを一過性のものに終わらせないような提言をしていきたい。

2. 調査概要

(1) 調査期間

2009年8月～2010年3月

(2) 調査内容

- ① 日本全国で開催されているマラソンイベントの基礎情報・データの収集及び分析
- ② 一般市民ランナーのマラソンイベントに対する意識調査・データ収集及び分析

(3) 調査方法

上記研究内容①を達成するために以下のA、B、Cを行い、②を達成するためにD、Eをそれぞれの方法として用いて調査を行った

A. ランニング雑誌を用いたマラソンイベントのデータベース作成

本調査のデータソースとして「月刊ランナーズ」2008年9月号～2009年8月号を用い、毎号に掲載されている「大会予定一覧」より必要項目を抽出し、excelデータとして作成した。

B. マラソンイベント主催者への質問紙調査

インターネットサイトであるRUNNET内の「2008全国ランニング大会100撰」に掲載されているマラソンイベントの主催団体100団体に対して、郵送による質問紙調査を行った。

C. マラソンイベント主催者への面接調査

インターネットサイトであるRUNNET内の「2008全国ランニング大会100撰」に掲載されているマラソンイベントの中から、なおかつ地理的な偏りがないように留意して、特徴を持つ5イベントを選定し面接調査を行った。

D. ランニングサイトを用いた一般市民ランナーに対するインターネット調査

RUNNETのインターネットサイトに調査サイトバナーを掲載し、インターネット調査を行った。

E. マラソンイベント開催地でのランナーに対する質問紙調査

「2009湘南国際マラソン」および「2009NAHAマラソン」において、各イベントへの参加者であるランナーに対して直接配布・回収法（一部、郵送回収法）を用いた質問紙調査を行った。

4. 結果・考察・結論

主な結果、考察、結論については、発表当日に提示する。